

当地区を流れる槻川に伝わる悲喜交々の言い伝えがある。田畑を潤す恵みに水はなくてはならない恵みだが、一度増水すると荒れ狂って手の付けられない川となる。でも増水を利用した恵みももたらしたといわれる。木材を葉後部手段がなかった時代、刈りためた木材を筏を組み、それに乗って深川まで運んだという恵みの大水でもあったというそんなに古くない話もある。反面、悲しい物語もある。和具の伝（でん）さんがどうしたはずみか、流木に乗って青い顔で手を振りながら流されていったという実話もある。最近でも「大ガニ」という深みにはまって水死したケン坊という就学前の少年がいた。山崩れの場所で水が淀み、木の葉がたまるような所で、あまり近寄らないところであるが、なぜ行ったかは誰にもわからない。50m位下に三ツ岩というきれいな岩がある。天女が横たわったように姿で皆から親しまれて、年少組の水浴び場になっていた。夏ともなれば、朝方から大勢の子どもたちで賑わっていたのだが、今では子どもたちは少なくなったので寂しい限りです。

当地区の神社の祭やおコモリの余興の万作おどりなど書き始めると夢は無限に広がり、思い出は尽きないが、またの機会に譲ります。

最後に一言「我が下里よ、永遠なれ」

福島嵩（84歳）